

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.246

2013年11月

名古屋大学モンゴル事務所設立準備室開設等に関する合同式典を挙



## 目次

●ニュース	
名古屋大学モンゴル事務所設立準備室開設等に関する合同式典を挙	3
平成25年度名古屋大学公開講座を開講	4
濱口総長と益川本学特別教授が韓国を訪問	5
市橋副総長が第4回日露学長会議に出席	6
秋の名古屋大学オープンレクチャー2013を開催	6
中京テレビ放送株式会社と産学連携に関する協定を締結	7
平成25年度大学院秋季修了式を挙	7
平成25年度秋季入学式を挙	8
●知の未来へ	
「スラムの政治学」から民主主義を再検討する	9
日下 渉（大学院国際開発研究科准教授）	
●キャンパスクローズアップ	
ナショナルコンポジットセンター（NCC）	10
●知の先端	
年輪分析による過去の宇宙線変動の解明	12
増田 公明（太陽地球環境研究所准教授）	
●部局ニュース	
シラパコーン大学教育学部が本学を訪問	14
解剖弔慰祭を挙	14
第8回名大病院市民公開講座を開催	15
ICCAE 2013年度第3回オープンセミナーを開催	15
「地域力向上による減災ルネサンス・キックオフシンポジウム」を開催	16
公開シンポジウム「環境・文化芸術まちづくりへの処方箋」を開催	16
第93回防災アカデミーを開催	17
「名大のキノコ観察会」を開催	17
●名大を表敬訪問された方々	18
●新たに締結した学術交流協定	18
●構成員を対象とした研修	19
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成25年9月16日～10月15日	20
●イベントカレンダー	22
●ちょっと名大史	
『氷壁』・ナイロンザイル事件と名古屋大学	28

# 名古屋大学モンゴル事務所 設立準備室開設等に関する合同式典を挙





1

- 1 式典であいさつする総長
- 2 テープカットの様子
- 3 新モンゴル高校との姉妹校協定調印式の様子

名古屋大学モンゴル事務所設立準備室開設等に関する合同式典が、10月10日(木)、モンゴル ウランバートルのツーシンホテルにおいて挙行されました。本学は、モンゴルと20年近く交流を進めており、2006年にはモンゴル国立大学法学部内に日本法教育研究センターを、2009年にはモンゴル科学技術大学内にフィールドリサーチセンターを設置し、共同で研究・教育を行うことにより、人材育成を図ってきました。

式典では、まず、濱口総長及び清水武則駐モンゴル国日本大使よりあいさつがあり、引き続き、第1回「PhDプロフェッショナル登龍門」入校式が行われました。これは、2012年10月、文部科学省の博士課程教育リーディングプログラム（オールラウンド型）に採択された、文系・理系の分野の垣根を越えて、世界の最前線で活躍できるトップリーダーを育成することを目的とした、5年一環の教育プログラムです。今回は、第1期生である22名の学生にとっての最初のアジア研修をモンゴルで実施することに伴い、入校式を行いました。入校式では、プログラム責任者である山本理事からあいさつがあり、次いで、プログラムコーディネーターである杉山 直理学研究科教授



から同プログラムの内容説明がありました。その後、履修生代表のあいさつがありました。

引き続き、本学教育学部附属高校と新モンゴル高校との姉妹校協定調印式が行われました。新モンゴル高校は、2000年に日本式教育方法を実践するために設立された高校で、卒業生の本学への入学もあり、以前より交流のあった高校です。調印式では、植田健男教育学部附属高校長及びナランバヤル新モンゴル高校長が協定書に調印し、協定書を取り交わした後、あいさつをしました。今回の姉妹校協定締結により、両校のさらなる交流が期待されます。

続いて、名古屋大学モンゴル事務所設立準備室開室式が行われました。同事務所は、将来、モンゴルで、「名古屋大学モンゴル海外キャンパス」を展開することを目標に、研究・教育活動を促進するための拠点として設けるもので、今回は、式典会場である同ホテ

ルのビジネスタワー内に設けた同事務所準備室の看板上掲式を行いました。まず、総長、竹下局長、山本理事、ツーシンホテルのトゥーヤ エグゼクティブマネージャー、池部駐モンゴル国大使（代理）によるテープカット及び看板上掲式が行われました。

最後に、関係者が一同に介しレセプションが行われ、親睦を深めました。

式典に先立つ9日(水)には、総長がモンゴル国立科学技術大学、モンゴル国立大学を、10日(木)には、モンゴル科学教育省、モンゴル国立教育大学、新モンゴル高校を表敬訪問しました。

また、9日(水)夜には、名古屋大学全学同窓会モンゴル支部総会が行われ、多くの在モンゴルの本学卒業生及び元留学生が集まり交流しました。

今後、本学及びモンゴルがさらに発展的な関係を築く上で、重要な機会となりました。

## 平成25年度名古屋大学公開講座を開講

平成25年度名古屋大学公開講座が、8月20日(火)から10月15日(火)までの間、経済学部講義室において開講されました。この公開講座は、本学の研究成果を広く一般に紹介することを目的に毎年開講されており、今年で45回目となります。

今年度は、総合テーマを「絆：つなぐ、つながるを考える」とし、全15回の講義が行われました。東日本大震災後の苦しいときに、お互いに助け合おうとする人々の絆が注目されましたが、逆に、無縁社会といった言葉が注目されるようになるなど、地域コミュニティや家族のつながりが弱くなっていることもしばしば指摘されます。一方で、グローバル化が進展し、海外の出来事がたちどころに私たちの生活にも影響するようになり、人と人のつながりは国境を越えています。また、文化や歴史研究、教育活動は、先人の知恵や経験を将来の世代につなぐ役割を果たしています。そもそも科学の発展は、人類が直面する様々な問題に対して解決策を探るための営みともいえます。その意味では、大学で行われている研究は何らかの意味で一般の方々にとっても身近な問題とつながっていると言えます。本講



会場の様子

座では幅広い観点から、つなぐ、つながるに関連するテーマで、文系、理系、医学などの様々な分野で最先端の研究をしている本学教員が解説しました。講義終了後には、受講者から講師を務めた教員に対して多数の質問が投げかけられるなど、関心の高さがうかがわれました。

10月15日(火)に行われた閉講式では、宇澤 達社会連携推進室長があいさつを行った後、平成19年度から導入している受講者への表彰制度に基づき、平成10年度以降に5年参加した5名の方に表彰状を、10年参加した5名の方と15年参加の2名の方に表彰状と記念品を手渡しました。また、受講者118名のうち講義に10回以上出席した92名の方には修了証書が発行されました。なお、参加者の多様化を図るとともに、高校生に本学への関心を持ってもらうための試行として、平成22年度に開始した近隣の高等学校に対する公開講座への参加の案内を、今年度も受講料を無料として行ったところ、県内の7校から延べ12名の参加がありました。

開講に先立ち、7月7日(日)から9月8日(日)の毎週日曜日には、東海ラジオで、ラジオ放送公開講座「名古屋大学リレーセミナー」として、全10回の放送を行いました。



会場の様子



表彰式の様子

## 濱口総長と益川本学特別教授が韓国を訪問

濱口総長は、益川敏英本学特別教授と10月1日(火)、2日(水)の両日、韓国を訪問しました。

1日(火)は、ソウルのロッテホテルにおいて、特別講演会「韓日協力と創造経済」が開催されました。これは、韓国産業通商資源部主催「韓日産業技術 FAIR2013」の中で開催され、総長と益川特別教授が招待されたことによるものです。このフェアは、日本と韓国との産業部門における交流の場として毎年開催されており、今年は産業部門のみならず、研究開発部門における協力をテーマにしています。特別講演会には、韓国産業通商資源部関係者、日本及び韓国の企業関係者など約500名が聴講しました。

まず、総長が「名古屋大学の目指す人材育成～ノーベル賞級学者を生んだ学風～」と題し、日本における愛知県の産業の重要性、日韓産学官の連携の重要性等について話し、引き続き、益川特別教授による講演が行われ、現代科学の宿命や欧米の巨大化する科学に異なる価値を提示できるのは、稲作民族である日韓をはじめとした東南アジア諸国であると述べました。

最後に、総長と益川特別教授との対談において、益川特別教授の生い立ちや研究エピソード等が紹介されました。質疑応答では、参加者から韓国でのノーベル賞受賞について質問があり「きちんと基礎研究が進められている国には等しくノーベル賞受賞者は生まれると思う。研究を開始してから受賞までには時間がかかるので、韓国からもそろそろ成果が出てくる時期ではないか」と述べました。1時間に及ぶ特別講演は、和やかな雰囲気の中、終了しました。

翌2日(水)は、韓国科学技術院 (KAIST) との大学間学術交流協定締結調印式が、大田市内の韓国科学技術院において挙行されました。今年7月、スティーブ・カン韓国科学技術院総長が本学を来訪されたのを機に、両大学の学術交流を開始し、今回の協定締結に至りました。

調印式では、益川特別教授の立ち会いの下、濱口総長とスティーブ・カン総長が署名しました。韓国科学技術院は、



韓日産業技術 FAIR2013での特別講演会の様子



KAISTでの特別講演会の様子

1971年に韓国初の政府援助による科学技術分野のみを専門とする大学院大学として設立し、世界の主な研究基盤大学の一つとなることを目指しています。

調印式後、学生及び教職員を対象とした益川特別教授の特別講演会が開催されました。

まず、総長が本学の歴史や本学が目指すものについて紹介し、「天才は先天的才能か、教育環境か？」と学生の問いかけに対し、創造性の70%は教育環境により作られることを説明し、これからが大切な時期であると述べました。

引き続き、益川特別教授の「現代の科学と社会」と題した講演が行われました。相対性理論について、ローレンツが先に発表したにもかかわらず、どうしてアインシュタインがノーベル賞を受賞したのかなど、興味深い内容に学生は熱心に耳を傾けていました。

最後に、総長と益川特別教授の対談で、益川先生が、自身の生い立ち、学生時代のエピソードを紹介し、学生から「同じ研究を何十年も続けていく上でのストレスはありませんでしたか？」という質問に、見つけた疑問の答えを自分が最初に見つきたいという気持ちがあったからこそ続けられたと、好奇心の大切さを述べました。

## 市橋副総長が第4回日露学長会議に出席

市橋副総長が、10月10日(木)、ロシア モスクワ大学において開催された、第4回日露学長会議に出席しました。

同会議は、ロシア側から、モスクワ大学をはじめ20大学35名、日本側からは、主宰校の東北大学をはじめ国立・私立の21大学55名が参加しました。文部科学省からは、坂東久美子文部科学審議官、有賀 理高等教育局国際企画



第4回日露学長会議の様相

室長等が参加し、本学からアクマル・ブルハノフ ウズベキスタン事務所副所長も出席しました。

会議では、ヴィクトル・アントノヴィッチ・サドーフニチイモスクワ大学長と齋藤 康学長の基調講演に続き、参加大学によるプレゼンテーションが行われ、本学からは、市橋副総長が濱口プラン2013を中心とした本学の国際化の推進について紹介しました。

次に、文部科学省から新しい大学間交流政策として、日露両国政府間で学術交流に関する覚書を結ぶこと、特に医学、ライフサイエンス、農学、環境、エネルギー、産学共同の分野において、日露共同研究プロジェクトを推進すること、また日露学生交流を推進すること(留学生30万人計画のなかで、ロシアについては5倍に増やす)、特に世界展開力事業の重点国にロシアを位置づけるなどがあげられました。

この会議によって、引き続き、教育・研究を促進することが合意され、2014年3月に100名の日本人学生を対象にモスクワ大学で教育・分化プログラムを開催する事が決まりました。

なお、第5回日露学長会議については、2015年に千葉大学をホストとして行われます。

## 秋の名古屋大学オープンレクチャー2013を開催

秋の名古屋大学オープンレクチャーが、9月23日(月)、東山キャンパスにおいて開催されました。同レクチャーは、本学で研究されている先端研究について少人数の講義スタイルで紹介するもので、春に開催し好評だったため今回秋にも開催され、169名の方が参加しました。

参加者は、理学南館大講堂で概要説明を聞いた後、各講



講義を受ける参加者

義室で講義を受けました。講師は、オープンレクチャーでは恒例となった趣向を凝らした実験や、研究室見学などを交えながら講義をし、参加者からは「言語学において研究される具体的内容を知ることができた」、「視点を変えた見方が重要だと理解できた」という感想がありました。参加者アンケートでは97%の方がわかりやすかったと回答し、89%の方は理解が深まったと答え、無事オープンレクチャーの目的を果たすことができました。

今回の講義は、生田博志工学研究科教授が「夢の技術を叶える超伝導のはなし」、石原一彰工学研究科教授が「大発見・大発明に大切なセレンディピティーのはなし」、大島義和国際開発研究科准教授が「日本語のコミュニケーションと文末表現のはなし」、加藤竜司創薬科学研究科准教授が「再生医療と薬のはなし」、澤田 均理学研究科附属臨海実験所教授が「動物と植物の生殖のはなし」、澤博工学研究科教授が「未来を拓く新機能性材料の開発のはなし」、徳丸宗利太陽地球環境研究所教授が「最近の太陽黒点と宇宙天気のはなし」と題した7つの講義を行いました。

次回は3月に開催を予定しています。

## 中京テレビ放送株式会社と産学連携に関する協定を締結

中京テレビ放送株式会社との産学連携に関する協定書の調印式が、9月26日(木)、中京テレビ放送株式会社本社において、挙行されました。本協定は、地域経済の活性化及び産学連携ネットワークの強化を目指し、両者が有する資源・知的財産を有効に活用しながら産学連携活動の推進を図ることを目的として締結されたものです。



調印式の様子

今回の協定締結により、大学の知的財産・人材等と、放送局が有する情報発信力・コミュニケーションノウハウ・企業間ネットワーク等の融合を通じて、大学と企業の連携及びそれに伴う大学の「知」の社会還元がより一層強化されることが期待されます。

調印式終了後、列席した松尾産学官連携推進本部長、獅山有邦産学官連携推進本部次長、山本孝義中京テレビ放送株式会社代表取締役社長、小津信一郎中京テレビ放送株式会社取締役報道局長の間で、活発な意見交換が行われました。

## 平成25年度大学院秋季修了式を挙行

平成25年度名古屋大学大学院秋季修了式が、9月27日(金)、理学南館大講堂において挙行されました。

今年度の秋季の大学院修了生は、修士課程及び博士課程前期課程48名、医学博士課程及び博士課程後期課程48名の計96名となりました。

濱口総長、役員及び各研究科長の列席のもと挙行された



祝辞を述べる総長

修了式においては、総長から各研究科の修了生代表に学位記が授与され、次いで、修了生に対し、本学における課程を修了したことへのお祝いの言葉と、本学において学んだ知識や技術をさらに研鑽し、世界の発展のために貢献することを希望する旨のはなむけの言葉が贈られました。

これを受け、修了生を代表して大学院法学研究科の金 肖豊さんから、21世紀はアジア・太平洋の時代と言われる中、同地域が世界に通用し得る新しい思想・文化・価値観を提供できるかが我々若手研究者に課せられた課題であり、この課題に対し、本学で培った力を発揮し、専門分野の垣根を越えて協力することで、果敢に挑戦していきたいとの力強い「総代の辞」がありました。

閉式後には、修了生から、家族や友人、お世話になった教員へ感謝の気持ちを伝えようと花束の贈呈が行われました。

また民族舞踊団音舞による「切籠太鼓」、「ソーラン節」が披露され、修了生の門出をにぎやかに祝いました。

## 平成25年度秋季入学式を挙行

平成25年度名古屋大学秋季入学式が、10月4日(金)、豊田講堂において挙行されました。

今年度秋季入学生は、学部49名、大学院127名(修士課程及び博士課程前期課程74名、医学博士課程及び博士課程後期課程53名)の総勢176名となりました。

秋季入学生の多くは、留学生特別コース、大学院医学系



式典会場の様子

研究科修士課程医科学専攻医療行政コース(ヤング・リーダーズ・プログラム)、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30:G30)」により設置された国際プログラム群等、海外からの留学生です。中でもG30は、我が国の高等教育における国際競争力の強化及び留学生等にとって魅力的な水準の教育等を提供するとともに、国際的に活躍できる高度な人材の養成を図ることを目的として、大学の機能に応じた質の高い教育と、海外の学生が日本に留学しやすい環境を提供する国際化拠点の形成に向けた取り組みを総合的に支援するものです。G30に基づき設置された国際プログラム群では、海外から本学を目指す優秀な学生等に対し、学部レベルにおいても秋季入学を可能とし、また、全ての授業が英語で行われるため、英語のみで卒業し、学位を取得することが可能です。

名古屋大学交響楽団が演奏するパッヘルベル作曲の「カノン」で始まった式典では、濱口総長から英語で祝辞が述べられ、続いて役職員等の紹介の後、経済学部 金 曙賢さんが入学生総代として、入学にあたって学生としての本分を全うすることを宣誓しました。閉式後は、豊田講堂内で、晴れやかな表情で記念撮影をする入学生の姿が見られました。

# 「スラムの政治学」から民主主義を再検討する

大学院国際開発研究科准教授  
日下 渉

私の専門は、政治学とフィリピン研究です。マニラのスラムにおける住み込み調査に基づいて、「非公式の政治」「道徳政治批判」「非市民的共同性」といった視点から民主主義の可能性と課題を再検討してきました。その成果の一部は、今年『反市民の政治学―フィリピンの民主主義と道徳』（法政大学出版局）に上梓しました。

途上国で暮らす貧困層の多くは、不法占拠や街頭販売といった法に反する生計によって慎ましい暮らしを支えています。弱者のはずの貧困層が国家の法秩序を侵食できるのは、自ら組織化して警察や末端役人を集団的に買収するからです。これに対して、中間層は貧困層の生計を非道徳だと批判しますし、国家リーダーは経済発展と法治主義の名の下に強制排除を断行してきました。しかし、もともと貧困層が不法な生計に頼らざるを得ないのは、極めて不平等な社会経済構造のためです。近年の日本でも多いですが、社会経済的問題を道徳の問題にすりかえる言説や政策は、不平等を隠蔽し助長する偽りの処方箋です。

一般に、民主主義には道徳的市民が不可欠だと主張されます。しかし、正しき「市民」を定義するには、悪しき「非市民」という対抗概念を作り出す必要があります。多様な道徳を擁護する人間同士が対抗しながらも共に問題に取り組むための仕組みを民主主義とするならば、正しき「市民」という概念は、特定の人びとを「非市民」として排除することで民主主義の複数性を否定し兼ねません。善悪で社会を切り分ける道徳政治ではな



籠で遊ぶ男の子と女の子

く、むしろ特定の「正しさ」に依拠しない人間同士の共同性を模索し、それを民主主義の基盤にしていくことが求められていると思います。

その際、フィリピンのような途上国から学ぶことは多いです。フィリピンでは国家が人びとの豊かさや生活を保障しないため、人びとは深刻な反目を抱えながらも協働して厳しい抑圧や貧困に抗し、生活を支えあってきました。今日、福祉国家の解体が進む日本で、私たちは国家の保障から放り出され、熾烈な市場競争を強いられつつあります。国家が後退するなか、生存のために人が人を蹴落とし続ける過酷な競争社会を所与とせず、多様な人びとが対立しながらもいかに協働して互いの生活を支えあえるのかを構想する時、途上国の人びとの共同性と実践は実に有意義な視座を与えてくれます。



街頭で果物を売る母と子



スラムの子供たち

## 43. ナショナルコンポジットセンター（NCC）



1	5	6
2		
3	4	

- 1 外観（北西面）
- 2 外観（西面）
- 3 1階 プレス実験室
- 4 1階 プレス実験室
- 5 1階 耐雷実験室
- 6 2階 耐火・耐炎実験室

ナショナルコンポジットセンター（NCC）は、平成24年度、我が国では初となる複合材製造技術の実証・評価の研究開発拠点として整備した施設です。これまで海外でしか実施できなかった航空機や自動車などの実物大の大型部材成形の試作・評価等を国内で可能とする、耐雷、耐火・耐炎試験をパッケージした世界でも類のない拠点として、ものづくり産業の国際競争力強化への貢献を期待されています。

本事業は、経済産業省のイノベーション拠点立地推進事業「先端技術実証・評価設備整備費等補助金」に採択されたため、事業費の2/3を経済産業省補助金、1/3を本学経費によって整備しています。



起伏に富んだ東山キャンパス東地区の緑地部分での計画にあたり、コンパクトな平面形状の実現と、地形に合わせた1階床レベルの設定を行い掘削土量を抑制し、周辺自然環境への影響を抑えて





います。また周辺施設での実験環境に与える影響を抑えるため、電磁波シールド、コンクリート系外装材、二重防音建具などの環境影響低減手法を採用しています。

建物は鉄骨造地上2階建て、延べ面積1,481m<sup>2</sup>、基礎構造はプレボーリング根固め工法による杭基礎を採用しています。大型プレス機器を設置するための大きな空間を必要とする複合材試作エリアと、実験時に大音量を発生する耐雷性能評価エリアの2つのボリュームで構成しており、双方の中間部分には耐火・耐炎性能評価エリアと管理エリアを配置し、それぞれを水平動線、縦動線がコンパクトにつないでいます。

柱間に斜材を入れたブレース構造により建物の水平剛性を高め、実験室内に設置された大型クレーン使用時の建物変形を低減するほか、鉄骨構造部材の断面寸法を小さくし、実験環境の快適性と構造計画における経済性を両立しています。

大型プレス実験室（複合材試作エリア）は、室面積522m<sup>2</sup>、天井高14.7mの大空間に荷重容量3,500トンの大型プレス装置を設置し、その廻りに炭素繊維供給型樹脂二軸押出機、IRヒーター、ボイラーを配置、天井には50.5トンと2.8トンの走行クレーンを設置しています。

低コストかつ高品質な製品製造技術に繋げるため、主に熱可塑樹脂を用いた炭素繊維複合材を用

いた大型成形部品を航空機や自動車へ展開するため今回導入した設備により、実際に生産で製造する製品と同サイズの部材を成形することにより、成形技術の実証・評価を実施します。

耐雷実験室は、室面積391m<sup>2</sup>、天井高6.9mの空間に雷大電流発生装置（最大発生電流 10/350 $\mu$ s波形 220kA）を配置し、部屋全体を電磁シールドで覆い、騒音、電磁波等建物外部に影響を及ぼさないようにしています。

電気伝導度の低い炭素繊維複合材では雷撃による被害が顕著であり、これらを使用した次世代自動車や航空機、風車等の安全性の裏付けのため、耐雷技術の開発を行っています。

2階の耐火・耐炎室においては、炭素繊維複合材の燃焼や熱、化学分析機器を駆使し、防火・不燃性能、耐久性、延焼性、有毒ガスの発生等に係る材料評価を行っています。

今回のナショナルコンポジットセンター（NCC）の建設により、全国の複合材製造技術の実証・評価の研究開発のハブ拠点となるべくオールジャパンの研究機関ネットワークを形成し、国内の大手複合材メーカー、複合材のユーザーとなる航空機・自動車関連メーカー等が参加する多様な産学連携プロジェクトを推進していくことが可能となりました。

（施設管理部）

# 年輪分析による過去の宇宙線変動の解明

増田 公明 太陽地球環境研究所准教授

私たちの周りには多くの放射線が飛び交っています。その源の一つが宇宙線です。宇宙線とは、地球外の宇宙で生成された高エネルギー粒子及び電磁波です。宇宙線を測ることによってその発生源である天体や地球へ伝播する間の宇宙空間の情報が得られます。陽子のような荷電粒子は宇宙空間の磁場の影響を受けています。私たちの銀河系でつくられた宇宙線（銀河宇宙線）は太陽の磁氣的勢力範囲である太陽圏に入り、地球へ到達します。太陽活動の強さは平均11年の周期で変化しており、太陽活動が活発な時は太陽圏の磁場が強く、宇宙線は太陽圏に入りにくくなり、地球へ到達する宇宙線量も少なくなります。従って、宇宙線量を測定することによってその時の太陽活動の強さがわかります。

現在は、地上からあるいは気球や人工探査機に搭載した検出器によって宇宙線を測定しています。しかしこのような測定が可能になったのは数十年から100年前くらいからであり、それ以前は測定がありません。そこで過去の宇宙線量を知るために、地球を大きな検出器に見立てた測定方法が考えられました。宇宙線が地球大気に入射すると原子核反応によって多くの素粒子（二次宇宙線）とさまざまな元素の同位体（宇宙線生成核種）が作られます。その中の一つが炭素14です。自然界の炭素はほとんどが炭素12で、少し重い炭素13が約1%あり、さらに重い炭素14は炭素12の一兆分の一（ $10^{-12}$ ）しか存在していません。炭素12や炭素13が安定な同位体であるのに対して、炭素14は不安定な放射性同位体で、その半減期は5730年です。炭素14は、宇宙線が地球大気と反応して中性子を生成し、これが大気中の窒素14と反応することによって作られます。大気中の炭素はすぐ

に二酸化炭素になり、光合成によって樹木に取り込まれるため、古い樹木の年輪にはその年代の炭素が固定されています。炭素14は年輪に取り込まれるまでに炭素循環によって地球上の大気とほぼ一様に混合します。年代が既知の年輪中の炭素14濃度を測定することによって、その年代の宇宙線量を知ることができます。これまでに過去12,000年間について10年または20年ごとの炭素14濃度が測定されており、世界共通の年代測定の較正曲線（IntCal）として用いられています。

IntCal データによれば、炭素14濃度が100年のスケールで増加している時期が何度もあります。これはその時期に地球へ到達した宇宙線量が多かったことを意味しています。そのおもな原因は、太陽活動が弱くなって宇宙線が地球に到達しやすくなったためと考えられ、17世紀後半のマウンダー極小期がその代表です。現在の太陽活動は約11年の周期でその強弱を繰り返していますが、過去の太陽がどのような変化をしていたかはわかっていませんでした。IntCal のような10年値のデータは長期変動を調べるには適していますが、10年より速い変化は見えません。そこで、私たちのグループでは樹木年輪1年ごとの炭素14濃度を高精度で測定しています。その結果、太陽活動の11年周期変動による宇宙線量の変化を見ることができ、太陽活動が弱い極小期に太陽活動周期が長くなっていたことを見つけました。

一方、炭素14濃度の1年ごとの測定からは宇宙線の発生源の天体における急激な変化も見ることができます。IntCal データを見ると、過去3000年の間に炭素14濃度が大きな増加率（0.3%/10年以上）を示した時期があり、そのうちの8世紀後半の増加について詳しく調べました。研究室で保有



図1 炭素14測定に使われた屋久杉の円板。直径1.9m、厚さ30cm、樹齢1900年。

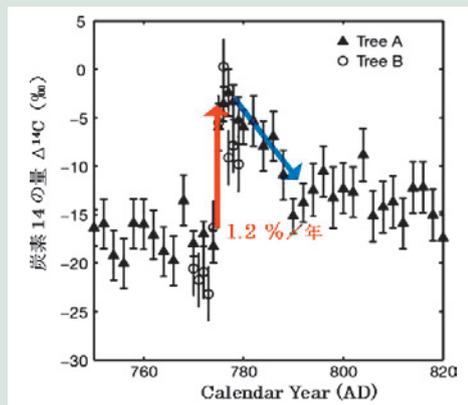


図2 8世紀の炭素14濃度の変化。

している樹齢約2000年の屋久杉の円板 (Tree A: 図1) の単年輪から、化学操作によりグラファイトとして得られた炭素試料中の炭素14濃度を、本学年代測定総合研究センターの加速器質量分析計を用いて測定しました。図2がその結果で、炭素14濃度が西暦774年から775年の1年間で1.2%増加した後数年かけて減衰したことがわかります。これは何らかの理由で宇宙線量が西暦775年に1年以下の短期間で増加して地球大気中に炭素14を生成し、その後大気中炭素14が炭素循環によっておもに海洋へ溶けて減衰したと解釈できます。この宇宙線量の増加が、別個体の屋久杉 (Tree B) やヨーロッパの樹木年輪中の炭素14や南極アイスコア中のベリリウム10 (宇宙線生成核種の一つ) でも確認され、この現象が全地球的に起こっていたことがわかりました。従ってこの現象は地球外の高エネルギー爆発が1年より短い期間で起こり、宇宙線量が急激に変化した痕跡と考えられます。その原因としては、地球の近くで起こった超

新星爆発やガンマ線バーストなどの高エネルギー天体現象からのガンマ線や特大の太陽フレアに伴う高エネルギー粒子が地球に届いたと考えられます。これらの現象は頻繁には起こらないので、実際の発生頻度を調べることで原因を絞り込むことができます。そこで対象年代を拡げて年輪中の炭素14濃度を測定したところ、振幅はやや小さいですが、10世紀の終わりにも同様の宇宙線増加現象を見つけました。結局1600年分の年輪試料を測定して2例の増加現象が見つかり、その発生頻度は800年に1回程度ということになります。これはそれほど小さな確率ではありません。宇宙線増加現象の頻度が高くなれば、原因としては太陽フレアの可能性が高くなってきます。もしこのような現象が現代に起こると、人工衛星の運用や通信・電気などの設備への影響など社会的影響が大きいのはもちろんですが、生物・人類への影響も考えなくてはなりません。さらに測定年代を拡大して、発生頻度の精度を上げていく必要があると考えています。

東京都出身

早稲田大学理工学部応用物理学科卒業

早稲田大学大学院理工学研究科修了

1997年より名古屋大学太陽地球環境研究所助教授、准教授

日本物理学会、応用物理学会、日本天文学会、日本地球惑星科学連合会員

専門分野：宇宙線物理、放射線物理、超高層物理学

ひとこと：

宇宙から飛来する放射線—宇宙線がどのようにしてつくられ、地球へやってきてどのような影響を与えるのかを知りたくてこの研究を始めました。過去を知らなければ未来は見えません。この研究が将来の予測に繋がることを期待しています。

ますだ きみあき



## シラパコーン大学教育学部が本学を訪問

●教育学部・大学院教育発達科学研究科

教育学部及び大学院教育発達科学研究科は、10月11日(金)、タイのシラパコーン大学教育学部からの訪問を受けました。同大学は、現在13の学部と7,000名の学生を有する国立大学です。

訪問者は、Wisa Chattiwat 同大学教育学部長ら38名の教員で、同行した教員の専門は、英語教育、タイ語教



熱心に説明を聴くシラパコーン大学教員

育、社会科教育、幼児教育、初等教育、技術教育、生涯教育、心理学、体育など多様でした。本学教育学部からは大谷 尚国際担当副研究科長ら、附属学校からは山田 孝高等学校副校長、仲田恵子国際交流担当教諭らが列席しました。

まず、この夏に校舎改修工事を終えたばかりの附属学校会議室において、両大学があいさつと列席者の紹介などを行った後、それぞれがスライドや映像を用いて、学部についての詳しい紹介を行いました。続いて、紹介の内容について質疑応答や議論を行って相互の理解を深めました。その際、両国の教員養成制度の違いや、学校教育や教員をめぐる状況についての議論がありました。その後、2つのグループに分かれて附属学校内の見学を行いました。シラパコーン大学からの訪問者は、附属学校の生徒らと一緒に写真を撮るなどして交流を楽しみ、最後に記念品の交換を行いました。

総じて、大変和やかな雰囲気の中で同学部との最初の交流がなされたことは、今後にとって、大変有意義であったと考えられます。

## 解剖弔慰祭を挙行

●医学部

医学部は、10月10日(木)、医学の教育・研究のために御献体された故人を慰霊するため、解剖弔慰祭を執り行いました。今年度も御遺族をはじめ、教職員、学生ら約300名が参列し、故人のご冥福をお祈りしました。

祭儀では、高橋医学部長から「医学への御献体に対し心からの敬意と感謝の意を捧げるとともに、医学医療の進



弔慰祭の様子

歩・発展及び医師・医学研究者の育成のために一層努力する覚悟であります」と慰霊のことばが述べられました。

また、学生を代表して医学部医学科2年の勝谷亮太郎さんが「多くの方々のご協力のもと医学を学べることに感謝し、御献体してくださった皆様の御遺志を無駄にせぬよう今後とも勉学に励み、将来の医療の発展のために努めていきます」と御霊と御遺族に対して誓いました。

祭儀に引き続き、解剖供養塔に御遺族、教職員、学生がお参りしました。

なお、今回供養された献体数は、系統解剖54体、病理解剖34体で、医学部創設以来の献体総数は17,446体となりました。

## 第8回名大病院市民公開講座を開催

●医学部附属病院

医学部附属病院は、9月29日(日)、中区役所ホールにおいて第8回名大病院市民公開講座を開催しました。

これは、治験を市民の方に広く知ってもらう機会として平成20年から開催されており、第8回となる今回は、厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業の一環として行われました。



講演会場の様子

石黒直樹医学部附属病院長から開会のあいさつの後、「骨の健康～さらに進む治療薬～」と題し、講演が行われました。骨の病気、主に骨粗しょう症について、すぐに取り組める身近な予防法から、骨粗しょう症の薬の特徴や投与期間など、治療法について紹介がありました。

次いで、平川晃弘先端医療・臨床研究支援センター講師から「くすりの効果の調べ方」と題し、統計学を用い、保健適用される薬として「効果がある」と判定されるまでにについての講演が行われました。

最後に、水野正明先端医療・臨床研究支援センター副センター長による閉会のあいさつで終了しました。

当日の受講者は400名を超え、市民の方々からの質問等、活発な質疑応答がありました。

また、ホール(講演会場外)に設置された超音波骨密度測定装置、自動血圧計では、多くの受講者が測定を体験し、盛況のうちに終了しました。

## ICCAE 2013年度第3回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター(ICCAE)は、9月26日(木)、2013年度第3回オープンセミナー「エチオピアの農民研究グループ活動：農家取得種子の質の向上による小麦の増収」を開催しました。

今回のセミナーでは、北部エチオピア・チグレ州メケレ大学のアレム・ゲブレツェダカ氏から、実際に農民と行った

小麦種子の塩水選による収量向上効果について話されました。それによると、生卵が縦に浮く程度の食塩水(食塩2.4kg/10L)で農民が収穫・保存しておいた小麦種子を塩水選し、中身の充実した重い種子を選んで栽培すると小麦収量が1、2割程度高くなりました。この傾向は、収量レベルが低い調理特性に優れて人気のある品種と多収性の2品種のいずれでも見られ、塩水選の効果に品種間差はありませんでした。

このように、農民と一緒にいって実際に畑で栽培し、その効果を示すことが農民の理解を得るいい方法であることが示されました。

日本において、塩水選はイネの優良種子の選別に一般的に用いられている技術です。技術としてはとても基本的なことですが、収穫した種子を次の栽培にも使うやり方が一般的なこの地方の農民にとって、比較的経費のかからない塩水選は小麦の収量を上げる技術として普及していくことが期待されます。



講演するアレム・ゲブレツェダカ氏

## 「地域力向上による減災ルネサンス・キックオフシンポジウム」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、9月28日(土)、環境総合館レクチャーホールにおいて、「地域力向上による減災ルネサンス・キックオフシンポジウム」を開催しました。同シンポジウムは、今年度より5年にわたり愛知県下5市町をモデル地区として行われる取り組みで、約60名の参加がありました。ここでは、データベースを根拠とした地域課題の整理



あいさつをする清水室長補佐

やワークショップを通じた人材発掘などからなる防災・減災対策方針の再構築(ルネサンス)を目的としています。

シンポジウムでは、まず福和減災連携研究センター長による開催のあいさつがあり、続けて清水乙彦文部科学省研究開発局地震・防災研究科防災科学技術推進室長補佐、宇佐見比呂志愛知県防災局防災危機管理課長からあいさつがありました。次いで、護 雅史同センター准教授によるプロジェクト概要、福田篤史名古屋都市センター調査課研究主査による名古屋都市センターの取り組みの紹介、山本真一郎愛知県防災局防災危機管理課主任による愛知県緊急雇用促進事業の紹介がありました。その後、飛田 潤災害対策室長のコーディネートののもと、半田市、津島市、犬山市、田原市、幸田町の防災担当者と小松 尚環境学研究科准教授による地域の概略説明や減災まちづくり方針の確認などが議論されました。会場からは、災害史としてのみならず「地域の歴史」として解釈する姿勢など、今後の防災・減災計画のありかたを地域戦略の枠組みで見つめ直す視点について、積極的な意見交換がありました。最後に、野田利弘副センター長の閉会のあいさつで終了しました。

## 公開シンポジウム「環境・文化芸術まちづくりへの処方箋」を開催

●グローバル COE プログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」

グローバル COE プログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」は、9月22日(日)、愛知芸術文化センターアートスペース Aにおいて、公開シンポジウム「環境・文化芸術まちづくりへの処方箋～低炭素・アート・豊かな暮らし～」を開催しました。同シンポジウムでは、地域コミュニティ、縮小社会、環境シミュレーション等のデー



総合討論会の様子

タと共に、これからの環境と文化芸術のまちづくりについて、その理想及びそれを実践するための方法について、具体的な事例を取り上げ、その方向性を議論しました。

第1部基調講演では、林 良嗣交通・都市国際研究センター長が趣旨説明を含めて「都市化の診断と治療～経済の時代から環境・文化芸術の時代へ～」と題して講演し、あいちトリエンナーレ2013芸術監督である五十嵐太郎東北大学教授が「国際芸術祭とまちづくり」にてあいちトリエンナーレ2013の社会的位置づけを話しました。また、建築家の宇野 求東京理科大学教授は、「未来のまちの作り方」と題し、自身の作品事例からこれからのまちづくりの問題提起をしました。

第2部取組事例報告〈街並みから考える未来の暮らし〉では、あいちトリエンナーレ2013出品作家である建築家の藤村龍至東洋大学講師より市民参加のまちづくりに関して述べられ、村山顕人環境学研究科准教授、加藤博と同准教授、吉田友紀子同助教による低炭素社会構築手法に関する報告が行われました。

最後に、夏原由博同教授、黒田由彦同教授を含めた総合討論会が行われました。

## 第93回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、9月20日(金)、環境総合館レクチャーホールにおいて、第93回防災アカデミーを開催しました。70名の参加がありました。

今回は、関谷直也東洋大学社会学部准教授より「風評被害－そのメカニズムと対策－」と題した講演が行われました。講演では、過去の風評被害の事例の紹介があった上で、



講演する関谷准教授

福島第一原子力発電所事故以降は、これまでの汚染が全くないにもかかわらず生じる経済的被害だけでなく、汚染はあるが、暫定基準値以下であるがゆえ生じる経済被害という2種類の風評被害があり、安全の許容量が人によって異なるからこそ深刻な問題となっている点を述べました。そして、具体的な風評被害対策として、「科学的な測定と産地を明確に分けて販売する」という例を挙げた上で、「県内と県外のロジックを別に考える」、「モニタリング検査の意味を理解する」、「情緒的説得ではなく、積極的な非購買者を抜いた8割の消費を上げる」など詳しく説明がありました。

会場からは講演内容を踏まえ、TV局の安全性やメディアへの要求などについて活発な質疑応答が行われました。

## 「名大のキノコ観察会」を開催

●博物館

博物館は、10月5日(土)、「名大のキノコの観察会」を開催しました。参加者は、幼児から幅広い年齢層で81名が集まりました。

まずは、事務棟裏の雑木林に入りました。キノコは、天候によって生え方が違うものですが、3週間以上まとまった雨のない状態が続いたため、キノコがあるかどうか心配



キノコを探索する参加者

でしたが、探してみるとタマゴタケ、シロオニタケ、キクバナイグチ、ヒイロタケ、ニガイグチ、ノウタケなど色とりどりのキノコが10数種類見つかりました。

1時間ほどの探索を終えた後は、博物館講義室で採集したキノコについて、講師の中條長炤 NPO 法人田中長嶺業績顕彰会理事長より説明がありました。参加者の関心が高いことは、どのキノコが食べられるかということであり、講師からは、「食べられるキノコは少ないので、確実に知っているキノコ以外は口にしないように」とアドバイスを受けていました。

また、希望者は同館講義室から、野外観察園セミナーハウス2階の展示室に移動して、現在博物館で開催されている「教育標本ムラージュ」のサテライト会場で展示中のキノコの写真展を見学しました。展示室には、今回の講師の中條理事長が愛知県内で撮影したキノコの写真が約40点展示してあります。参加者は、幻想的なものから、思わず手に取って食べたいくなるものまで、ここでも撮影秘話やキノコの説明を熱心に聞いていました。

## 名大を表敬訪問された方々 [平成25年7月16日～10月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
7月16日	韓国	成均館大学から金峻永学長他3名	表敬あいさつ及び学術交流に関する意見交換等
7月19日	英国	ブリテッシュ・カウンシルからジェフ・ストーリーター駐日代表	PhD プロフェッショナル登龍門との連携協力に関する覚書調印及び同プログラム参加学生を対象にした講義実施
7月26日	韓国	韓国科学技術院からステイーブ・カン・サンモ学長他3名	表敬あいさつ及び講演会
8月8日	タイ及びベトナム	チュラロンコン大学からポーンボット・ピアムソンプーン副学長他3名、ハノイ工科大学からファン・ホアン・ルオン副学長他2名	表敬あいさつ及び学術交流協定締結
9月17日	バングラデシュ	駐日バングラデシュ大使館からジバン・ランジャン・マジウンダー経済公使	表敬あいさつ及び留学生等との意見交換
9月24日	モンゴル	新モンゴル高校からガルバドラク・ジャンチブ理事長及びプレブスレン・ナランバヤル氏	表敬あいさつ
10月2日	タイ	チュラロンコン大学ビジネススクールからスンティ・トラパット銀行・金融部門長他1名	関係部局との意見交換
10月9日	カナダ	クイーンズ大学からステイブン・リス副学長	表敬あいさつ及び意見交換
10月9日	シンガポール	シンガポール国立大学からベック・ティアン・グアン環境安全衛生管理室ディレクター他3名	表敬あいさつ及び関係施設見学
10月9日	台湾	国立台湾大学から郭明良生命科学院長他2名	関係部局長との意見交換
10月11日	シンガポール	シンガポール・ポリテクニクからタン・チョーン・シアン校長	表敬あいさつ及び意見交換
10月15日	ベトナム	ベトナム社会科学学院からトラン・ディン・ハオ副院長他2名	表敬あいさつ及び法学研究科との意見交換

## 新たに締結した学術交流協定 [平成25年7月16日～10月15日]

### 大学間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名
8月8日	タイ及びベトナム	チュラロンコン大学及びハノイ工科大学
10月2日	韓国	韓国科学技術院

### 部局間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名	部局名
7月22日	オーストリア	ヨアネウム応用科学大学	情報文化学部
8月12日	中国	南京師範大学能源与機械工程学院	プラズマ医療科学国際イノベーションセンター
9月9日	シンガポール	シンガポール国立大学ビジネススクール	経済学部
9月9日	シンガポール	スラバヤ工科大学	工学研究科
10月8日	韓国	アサンメディカルセンター	医学部附属病院

構成員を対象とした研修 [平成25年7月16日～10月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
7月17日(水) ～18日(木)	国立大学法人等部課長級研修	国立大学法人等の部長、課長級職員を対象に、大学運営の基本的知識の取得と幹部職員としての能力の向上を目的とする。	190名
7月18日(木) ～19日(金)	東海地区国立大学法人等 新任課長補佐研修	東海地区国立大学法人等機関の新任課長補佐に対し、役割認識と職務に必要な知識・能力を付与することにより、法人職員の資質向上と職務遂行能力の増進を図る。	37名
7月22日(月) ～23日(火)	東海地区国立大学法人等係長研修	東海地区国立大学法人等機関の係長(専門職員)に対し、職場リーダーとして役割を担うために必要な業務効率化その他の知識を習得することを目的とする。	57名
7月31日(水) ～8月2日 (金)	大学教員準備講座2013	大学教員になる為に必要な知識と技能の獲得を目指す。	15名
通年 (集中講座期間: 8月1日(木) ～9月30日(月))	公的資金不正防止研修 e-Learning	インターネットを利用した e-Learning 研修を実施し、本学構成員の公的資金の使用に関する理解を高め、研究費等の適切な使用を徹底する。	全構成員
8月26日(月) ～27日(火)	東海地区国立大学法人等 中堅職員研修	東海地区国立大学法人等機関の中堅職員に対し、役割認識と職務に必要な知識・能力を付与することにより、法人職員の資質向上と職務遂行能力の増進を図る。	72名
9月5日(木) ～6日(金)	労働関係法セミナー	本学の労務・福祉関係業務の担当者が、労働基準法等の関係法令の知識を身に付け、業務の的確な遂行に役立てるために実施する。	31名
9月6日(金)	公正研究特別講演会(公正研究研修) 「科学研究の発展のための公正研究 の理解と実践」	公正研究をより広く客観的に捉え、研究倫理の周知徹底を目指して、国内外の各種不正事例をもとに、研究不正の背景、概念の説明を受け、不正の防止を図る。	158名
9月20日(金)	名古屋大学事務系職員 企画力向上研修	業務上の問題点や改善点についての改善企画から提案に至るまでの方法について学び、職員の企画力及びプレゼンテーション能力の養成を図る。	19名
9月26日(木) ～27日(金)	東海地区国立大学法人等 リーダーシップ研修	東海地区国立大学法人等機関の管理職員に対し、立場と役割を認識し、能力及び識見を確率させ、職員の資質向上を図ることを目的とする。	27名
9月27日(金)	組換え DNA 実験安全講習会	本学において組換えDNA実験を計画し、実施する際の安全を確保するために定められている、関係法令への理解を深めることを目的とする。	110名
10月2日(水)	平成25年度メンタルヘルス講習会 ラインケアセミナー	ストレス及びメンタルヘルスケアに関する基礎知識を理解する。部下の心の健康づくり対策のための責任と役割を認識する。	23名
10月2日(水)	平成25年度メンタルヘルス講習会 セルフケアセミナー	セルフケアの考え方を理解し、ストレスへの気づきと対処法を身に付け、日常生活での実践につなげることを目的とする。	54名
10月2日(水) ～4日(金)	名古屋大学技術職員研修	本学の技術職員に対し、その職務に必要な専門的知識及び技術を修得させ、技術職員の資質の向上と応用能力の開発及び養成を図ることを目的とする。	7名
10月9日(水)	パワー・ハラスメント防止研修	パワー・ハラスメント防止に必要な知識や上長としてのマネジメントスキルを修得することを目的とする。	44名

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
1 現代日本誤百科 (862)：髪は「ダメージにさらされる」町田 健文学研究科教授	9.16 (月)	中日 (朝刊)
2 大野雄高工学研究科准教授などはフィンランドのアールト大学と共同で世界初となるカーボンナノチューブのみで集積回路を実現	9.17 (火)	日経 (朝刊)
3 現代日本誤百科 (863)：「母は私を妊娠」した 町田 健文学研究科教授	9.17 (火)	中日 (朝刊)
4 第17回久保亮五記念賞 紺谷 浩理学研究科教授	9.17 (火)	日刊工業
5 名古屋大学 学部、大学院で全国上位の就職率 國枝理事の話	9.17 (火)	中日 (朝刊)
6 核心：苦境の地方法科大学院 本学の司法試験合格状況が取り上げられる	9.17 (火)	中日 (朝刊)
7 中日文化センター新講座：「34億年前の微生物化石は何を語るか」杉谷健一郎環境学研究科教授、「宇宙の天気 太陽と地球」草野完也太陽地球環境研究所教授	9.17 (火)	中日 (夕刊)
8 中日文化センター新講座「宇宙138億年の歴史 素粒子でみる宇宙の誕生から現在そして未来」：11月24日「ビッグバン」の光」杉山 直理学研究科教授、12月14日「宇宙の暗黒物質は未知の素粒子か？」久野純治理学研究科教授	9.17 (火)	中日 (夕刊)
9 現代日本誤百科 (864)：「野生で生息する」トラ 町田 健文学研究科教授	9.18 (水)	中日 (朝刊)
10 福和伸夫減災連携研究センター教授は名古屋市の震災対策について「効果的な対策を打ち出すには関係する全部局から人を集め、他の部局に指示が出せるような組織にすることが大切」と語る	9.18 (水)	中日 (朝刊)
11 第27回博物館企画展「本物？作り物？ロウ細工？ 教育標本ムラージュ」特別講演会「三河発シイタケ栽培 明治初期の近代菌類学バイオニア：田中長嶺」開催：28日	9.18 (水)	中日 (朝刊)
12 本学、中部大学に続いて名城大学大学院農学研究科が愛知県農業総合試験場と研究協力に関する協定を締結	9.18 (水)	中日 (朝刊)
13 松尾 稔元総長は死去したトヨタ自動車株式会社最高顧問豊田英二氏第八高等学校卒業生について「科学技術の発展には産官学連携が不可欠と（科学技術交流財団の）設立に尽力された。ご遺志に応え、これまで以上に科学技術振興を図っていきたい」と語る	9.18 (水)	読売
14 憂楽帳：プラズマ医療科学国際イノベーションセンター	9.18 (水)	毎日 (夕刊)
15 現代日本誤百科 (865)：電車の「乗客にけが人はいません」でした 町田 健文学研究科教授	9.19 (木)	中日 (朝刊)
16 知の明日を築く：名古屋大学グリーンモビリティ連携研究センター	9.19 (木)	日経 (朝刊)
17 社説：本学のアジア各国の法制度支援が取り上げられる	9.19 (木)	日刊工業
18 鈴木亜由子さん経済学部4年生が第68回国民体育大会愛知県選手団の結成式で代表宣誓を務めた	9.20 (金)	読売
19 あいち現場考：サロン企画 野依さん 熱い探究心 野依良治本学特別教授の講座について	9.21 (土)	中日 (朝刊)
20 豊田章一郎全学同窓会会長が名古屋工業大学「窒化物半導体マルチビジネス創生センター」を視察	9.21 (土)	毎日 (朝刊)
21 書籍：「原発と活断層」鈴木康弘減災連携研究センター教授著	9.30 (月)	日刊工業
22 福井教室100回記念特別イベント「福井教室&プラネタリウム観覧」開催：11月9日 福井康雄理学研究科教授が解説	9.22 (日)	中日 (朝刊)
23 宮田卓樹医学系研究科教授と岡本麻友美同特任助教らは神経幹細胞の「渋滞」防止の意義としくみを発見	9.22 (日)	朝日 (朝刊)
24 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授などはうねる炭素ナノ分子「ワーブド・ナノグラフェン」の世界初の合成に成功	9.23 (月)	中日 (朝刊)
25 堀尾文彦生命農学研究科教授と東京大学はコーヒーが糖尿病の発症を抑える効果について研究成果を発表	9.23 (月)	朝日 (朝刊)
26 現代日本誤百科 (866)：木に「落雷する」町田 健文学研究科教授	9.23 (月)	毎日 (朝刊)
27 平成25年度第23回講演会「職場のメンタルヘルスを考える：職場と医療はどのような連携をすればよいのか」開催：10月6日 尾崎紀夫医学系研究科教授が講演	9.23 (月)	中日 (朝刊)
28 環境・文化芸術まちづくりへの処方箋ー低炭素・アート・豊かなくらしー開催：22日 林 良嗣環境学研究科教授が講演	9.23 (月)	中日 (朝刊)
29 榎 文彦本学名誉博士が2020年東京五輪のメイン会場となる新国立競技場に対し大幅な見直しを求め論文を発表	9.23 (月)	中日 (朝刊)
	9.24 (火)	朝日 (朝刊)
	10. 2 (水)	毎日 (夕刊)
30 岡崎 進工学研究科教授と安藤嘉倫同研究員らは多くの原子や分子の動きをシミュレーションできる新しいソフトウェアを開発	9.24 (火)	日経 (朝刊)
31 医学部附属病院が米国製手術ロボット「ダヴィンチ」を導入している病院として取り上げられる	9.24 (火)	読売
32 いまドキッ！大学生：地元進学志向高まる 本学4年生が進学先を決めた理由について取り上げられる	9.24 (火)	中日 (朝刊)
33 中京大学理事奥野信宏本学元副総長がリニア中央新幹線の東京ー名古屋間開通に向けた中部経済の今後について語る	9.24 (火)	日経 (朝刊)
34 宇宙開発チーム NAFT が「スペースバルーン」を打ち上げ高度30メートルからの地球の撮影を目指す	9.24 (火)	中日 (夕刊)
35 三好由純太陽地球環境研究所准教授らの研究グループは太陽から太陽風が放出されると地球の衛星の軌道周辺で電子量が増えることを解明	9.25 (水)	中日 (朝刊)
36 フェ・名古屋大学内視鏡トレーニングセンター開設：12日 瀧口総長は「将来はハノイやホーチミンにも開設したい。内視鏡によるがんの早期発見などで何万人もの命を救うことができる」と語る	9.25 (水)	中日 (朝刊)
37 現代日本誤百科 (867)：妻を「死亡ひき逃げ」町田 健文学研究科教授	9.25 (水)	中日 (朝刊)
38 渥美の自然を守れ！伊良湖フォーラム2013開催：29日 夏原由博環境学研究科教授が講演	9.25 (水)	中日 (朝刊)
39 天声人語：榎 文彦本学名誉博士の新国立競技場に対する論文が取り上げられる	9.25 (水)	朝日 (朝刊)
40 宇宙開発チーム NAFT が「スペースバルーン」を打ち上げたが計画していた24日夕方の機材回収ができずこの日の回収を断念した	9.25 (水)	中日 (朝刊)
		毎日 (朝刊)
41 現代日本誤百科 (868)：「染め職人を体験する」町田 健文学研究科教授	9.26 (木)	中日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
42 附属図書館医学部分館第5回ミニ展示会「愛知医学校長 後藤新平 - 『大風呂敷』と呼ばれた男の名古屋時代-」 開催：25日～2014年1月31日	9.26 (木)	中日 (朝刊)
43 集い語る 大学図書館に 本学附属中央図書館のラーニングコモンズが取り上げられる	9.27 (金)	朝日 (朝刊)
44 学ぶ磨く中日文化センター訪問：素粒子が明かす宇宙 始まりのナゾに迫る 杉山 直理学研究科教授	9.27 (金)	中日 (朝刊)
45 濱口総長は自身が座長を務める就職問題懇談会が就職活動に関する学校間の申し合わせを策定したことについて 「就職時期の繰り下げで学生の勉強時間をしっかり確保できるようになる。大学としてもインターンシップや業界 研究を強化し、確実な就職につなげたい」と語る	9.28 (土)	日経 (朝刊) 中日 (朝刊)
46 同朋大学いのちの教育センター連続公開講座：10月10日「看取りの教育」植村和正医学系研究科教授が講演	9.28 (土)	中日 (朝刊)
47 第27回博物館企画展本物？作り物？ロウ細工？ 教育標本ムラージュ開催：8月6日～10月19日	9.28 (土)	朝日 (朝刊)
48 本学と株式会社デンソーはスマートハウスの家庭用エネルギー管理システムを共同開発	9.28 (土)	日経 (朝刊) 他2社
	9.30 (月)	日刊工業 日経産業新聞
49 第66回中部合唱コンクール大会：大学ユース合唱の部 本学混声合唱団コール・グランツェ 金賞	9.29 (日)	朝日 (朝刊)
50 日本経済新聞社が本学を含む主要大学の学長を対象にしたアンケートの調査結果が発表された	9.29 (日)	日経 (朝刊)
	9.30 (月)	日経 (朝刊)
51 第8回名大病院市民公開講座開催：29日	9.30 (月)	中日 (朝刊)
52 宇佐美徳隆工学研究科教授は京都大学との共同研究で半導体結晶の量子ドットを用いて太陽電池の電圧が低下する 原因を解明	9.30 (月)	日刊工業
53 現代日本誤百科 (869)：「命が危険な場所」町田 健文学研究科教授	9.30 (月)	中日 (朝刊)
54 医学部附属病院と三重大学医学部附属病院が取り組む小児がんの本人への病名告知について	10. 1 (火)	中日 (朝刊)
55 本学と英国ニューカッスル大学が福井県水月湖に堆積した1年ごとのしま模様の地層「年縞」の分析データを用い 5万年前までの年代を決める測定法が認められ世界標準になった	10. 1 (火)	中日 (朝刊)
56 現代日本誤百科 (870)：物価の「上昇を押し上げ」ている 町田 健文学研究科教授	10. 1 (火)	中日 (朝刊)
57 現代日本誤百科 (871)：「体に吸収しやすい」町田 健文学研究科教授	10. 2 (水)	中日 (朝刊)
58 股関節教室開催：27日 長谷川幸治医学系研究科寄附講座教授と池内一磨医学部附属病院医員が講演	10. 2 (水)	中日 (朝刊)
59 本学留学生会は留学生が身の回りの物を安価で手に入れられようバザーへの物品の提供を求めている	10. 2 (水)	中日 (朝刊)
60 街道を行く<417>：旧医学校正門	10. 2 (水)	中日 (朝刊)
61 地球水循環研究センターと名古屋文理大学、蒲郡市生命の海科学館などが共同で打ち上げた気象観測用気球が成層 圏に達し気球に取り付けた iPhone で地球の撮影に成功	10. 3 (木)	中日 (朝刊)
	10.12 (土)	毎日 (夕刊)
62 現代日本誤百科 (872)：「彼から着信があった」町田 健文学研究科教授	10. 3 (木)	中日 (朝刊)
63 「PhD プロフェッショナル登龍門」開校式：10日 濱口総長は「世界で活躍する人材を育てたい」と語る	10. 3 (木)	中日 (朝刊)
	10. 4 (金)	中日 (夕刊)
	10.11 (金)	中日 (朝刊)
64 来週発表 有力研究・日本人は ノーベル賞を占う 竹市雅俊本学特別教授の研究が医学生理学賞の分野で取り上げら れる	10. 3 (木)	朝日 (朝刊)
65 不戦大学イン名古屋開催：6日 安川寿之輔本学名誉教授が講演	10. 3 (木)	中日 (朝刊)
66 元駐中国大使丹羽宇一郎氏本学卒業生が北京を訪問し、中国の「中日友好協会」の招きにより22日に開かれる日中 関係をテーマにしたシンポジウムに出席予定	10. 3 (木)	毎日 (夕刊)
67 本学は英国のタイムズ・ハイヤー・エデュケーションによる世界大学ランキングで201～225位に入った	10. 4 (金)	日刊工業
68 平成25年度秋季入学式：4日 濱口総長が「持続可能で平和な世界をつくる人になってほしい」と語る	10. 4 (金)	中日 (夕刊)
69 朝日カルチャーセンター名古屋講座：「絵画と文学—中世の名僧たち」阿部泰郎文学研究科教授、伊藤大輔同教授	10. 5 (土)	朝日 (朝刊)
70 第68回国民体育大会「スポーツ祭東京2013」：成年女子5000メートル決勝 2位 鈴木亜由子さん経済学部4年生	10. 5 (土)	読売 中日 (朝刊)
71 深読み先読み：高い技術力 眠らせない 中部経済産業局長山本雅史氏 ナショナルコンポジットセンターが取り上げ られる	10. 6 (日)	朝日 (朝刊)
72 病院の実力：炎症性腸疾患 医学部附属病院の実績が取り上げられる	10. 6 (日)	読売
73 知と学びのサミット「個性が育むサイエンス—ノーベル賞受賞者が語る」開催：9月23日 益川敏英本学特別教授 と下村 脩同特別教授が講演	10. 7 (月)	朝日 (朝刊)
74 PhD プロフェッショナル登龍門 杉山 直理学研究科教授のインタビュー	10. 7 (月)	中日 (朝刊)
75 現代日本誤百科 (873)：「出来心で男と知り合いになる」町田 健文学研究科教授	10. 7 (月)	中日 (朝刊)
76 廣井 悠滅災連携研究センター准教授は地震火災について「どこで火災が起き、延焼しているのかなど、自分が置か れた状況がつかみにくい。情報の伝達や入手方法を考える必要がある」と語る	10. 7 (月)	朝日 (朝刊)
77 「TEDxNagoyaU」出場者選考会開催：6日 実行委員会委員長山口 涼さん本学3年生が「大学の研究が社会に還元 されていないと感じるので、その橋渡しになるイベントにしたい」と語る	10. 7 (月)	中日 (朝刊)
78 篠原久典理学研究科教授と首都大学東京は太陽電池等に利用できるナノ炭素材料を開発	10. 8 (火)	日経 (朝刊)
79 現代日本誤百科 (874)：「この間、主人は茶わんを取り出した」町田 健文学研究科教授	10. 8 (火)	中日 (朝刊)
80 特別講演会「世界遺産『熊野』— 悠久の自然史と滝と深層崩壊」開催：23日	10. 8 (火)	中日 (朝刊)
81 医学部附属病院「リウマチ療養相談会」開催：10日	10. 8 (火)	中日 (朝刊)

## 本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
82 益川敏英本学特別教授はノーベル物理学賞を英国エディンバラ大学名誉教授ピーター・ヒッグス氏とブリュッセル自由大学名誉教授のフランソワ・アングレール氏が受賞したことについて「日本の高い研究水準も大きく貢献した」と語る	10. 9 (水)	読売 他4社
83 小林 誠本学特別教授はノーベル物理学賞を英国エディンバラ大学名誉教授ピーター・ヒッグス氏とブリュッセル自由大学名誉教授のフランソワ・アングレール氏が受賞したことについて「質量が現れる仕組みは標準理論の基礎を構成するもので、大変重要な仕事」と語る	10. 9 (水)	朝日 (朝刊)
84 戸本 誠理学研究科准教授はノーベル物理学賞を英国エディンバラ大学名誉教授ピーター・ヒッグス氏とブリュッセル自由大学名誉教授のフランソワ・アングレール氏が受賞したことについて「ヒッグス粒子は必ずあると信じていた。その実験に関わられたことを誇りに思う」と語る	10. 9 (水)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
85 インタビュー：頭脳 大循環時代 野依良治本学特別教授	10. 9 (水)	朝日 (朝刊)
86 現代日本誤百科 (875)：私は「都会の喧騒を離れた」町田 健文学研究科教授	10. 9 (水)	中日 (朝刊)
87 松坂屋から見た関東大震災 蓬左文庫学芸員木村慎平氏本学博士課程修了	10. 9 (水)	朝日 (朝刊)
88 小林 誠本学特別教授はヒッグス粒子を発見した欧州合同原子核研究所の大型円形加速器 LHC について「標準理論を超える理論の証拠となる素粒子が、今後 LHC で見つかるかどうか注目している」と語る	10.10 (木)	毎日 (朝刊)
89 現代日本誤百科 (876)：「膨大に節約」できる 町田 健文学研究科教授	10.10 (木)	中日 (朝刊)
90 本学や名古屋市立大学など県内4大学の医学部に愛知県内の病院に勤務することを条件に学費を援助する「地域枠」を2009年から同県が創設したことが取り上げられる	10.10 (木)	読売
91 第32回「こころを育む総合フォーラム」開催：9日 野依良治本学特別教授が出席	10.10 (木)	読売
92 環境医学研究所 市民公開講座2013「環境・遺伝子の変異・疾患」開催：19日 益谷中央環境医学研究所教授が講演	10.10 (木)	中日 (朝刊)
93 読売新聞講座「読売新聞と海外報道」開催：9日 読売新聞東京本社編集局長が本学の修士課程1,2年生と短期留学生ら約40人に英語で講義	10.10 (木)	読売
94 自由席：英二さんのノート トヨタ自動車株式会社最高顧問豊田英二氏第八高等学校卒業生の大学時代のノートが取り上げられる	10.10 (木)	中日 (朝刊)
95 木下 専理学研究科教授と上田奈津実助教などのグループが神経線維の伸長を促進する微小管の「脱」安定化機構を発見	10.11 (金)	中日 (朝刊)
96 探訪 先端研究：グラフェン・ナノリボン 篠原久典理学研究科教授などがカーボンナノチューブの内部で GNR の作製に成功	10.11 (金)	日刊工業
97 下村 脩本学特別教授が研究に必要なウミホタルの採取のため何度も訪れた広島県高根島を約50年ぶりに訪れた	10.11 (金)	信濃毎日 (夕刊)
98 本学は来年度から文部科学省の運営費交付金を重点的に配分され、改革構想例としてベトナムやカンボジアにアジアキャンパスを設置し、各国の中核を担う人材を育成することが取り上げられる	10.11 (金)	朝日 (朝刊)
99 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム - STS フォーラム第10回年次総会 - 開催：6～8日 野依良治本学特別教授が『「社会の中の科学」』『社会のための科学』という考え方はますます重要になっている』と語る	10.12 (土)	読売
100 文化：言語通して人間探求 変な日本語 いつもメモ 町田 健文学研究科教授	10.12 (土)	中日 (夕刊)
101 厚生労働省が医学部附属病院を子宮頸がんワクチンの副作用の治療を行う病院の1つとして発表	10.12 (土)	読売 朝日 (朝刊)
102 ノーベル賞緊急講演会「ヒッグス粒子の正体に迫る」開催：17日 戸本 誠理学研究科准教授と青木保道基礎理論研究センター准教授、倉知昌史基礎理論研究センター特任助教が講演	10.13 (日)	中日 (朝刊)
103 現代日本誤百科 (877)：「すべてに妥協しない」町田 健文学研究科教授	10.14 (月)	中日 (朝刊)
104 「100万人のいただきます！」開催：13日 NPO 法人「テーブル・フォー・ツー・インタナショナル」東海支部代表 寺林稜平さん本学3年生は「愛知県では5大学しか(代金のうち20円がアフリカの学校給食への寄付となる)メニューを導入していない。学生の間での地名度を高めていきたい」と語る	10.14 (月)	朝日 (朝刊)
105 未来を拓く大学38：藤田保健衛生大学長黒澤良和氏本学卒業生	10.14 (月)	読売
106 研究現場発：新しい凍結治療装置の研究開発 磯田治夫医学系研究科教授	10.14 (月)	中部経済新聞

## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容
<b>9月25日(水)～1月31日(金)</b> 場 所：附属図書館医学部分館 2階入口ホール 時 間：9:00～20:00 (平日) (1月6、7日は9:00～17:00)、 13:00～17:00 (土曜日) 休館日：日・祝日、 12月28日(土)～1月4日(土) 入場料：無料  [問い合わせ先] 附属図書館医学部分館 052-744-2505	<b>附属図書館医学部分館第5回ミニ展示会</b> <b>「愛知医学校長 後藤新平</b> <b>ー『大風呂敷』と呼ばれた男の名古屋時代ー</b> 内 容：壮大な発想から「大風呂敷」と呼ばれた政治家後藤新平の足跡を愛知医学校時代を中心にたどる。卒業証書などの新収史料、貴重な文献、写真、絵葉書、生涯を描いたDVDを展示。



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**10月22日(火)~12月19日(木)、  
1月6日(月)~3月19日(水)**  
場 所：博物館野外観察園  
セミナーハウス2階  
時 間：10:00~16:00  
休 館 日：土・日・祝日  
入 場 料：無料

**博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示  
「ボタニカルアートと写真による観察園の植物」**  
テ ー マ：「I-秋の植物」(10/22~12/19)  
「II-冬と早春の植物」(1/6~3/19)



[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

**11月5日(火)~1月30日(木)**  
場 所：博物館3階企画展示室  
時 間：10:00~16:00  
休 館 日：日・月曜日、  
12月28日(土)~1月6日(月)  
入 場 料：無料

**第28回博物館企画展「『氷壁』を越えて  
—ナイロンザイル事件と石岡繁雄の生涯—**

[関連講演会]

場 所：博物館3階講義室  
時 間：13:30~15:00  
対 象：一般  
参 加 費：無料

**11月22日(金)**

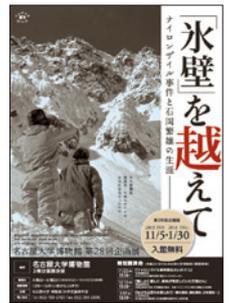
講演題目：「ナイロンザイル事件発生のいきさつ」  
講 演 者：石原國利氏 (ナイロンザイル事件当時の登山パーティのリーダー)

**12月13日(金)**

講演題目：「厳しさと優しさ、愉快さが同居していた石岡さん」  
講 演 者：相田武男氏 (『石岡繁雄が語る 氷壁・ナイロンザイル事件の真実』の共著者)

**1月17日(金)**

講演題目：「ながら山登りの楽しみ方—雲を読む、風を読む、光を読む—」  
講 演 者：三矢保永 (本学名誉教授)



[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

**11月16日(土)、11月30日(土)、  
12月7日(土)、12月14日(土)**  
場 所：農学部講義棟1階第8講義室  
時 間：10:00~12:00  
定 員：30名 (原則5回受講)  
対 象：一般  
参 加 費：無料

**2013年度あいち自然再生カレッジ**

テ ー マ：「地域の自然と生物多様性の保全」  
講演題目：「里山保全と人間」(11/16)  
講 演 者：増田理子氏 (名古屋工業大学准教授)  
講演題目：「野生動物と人間」(11/30)  
講 演 者：水谷瑞希氏 (福井県自然保護センター企画主査)  
講演題目：「侵入生物と人間」(12/7)  
講 演 者：矢部 隆氏 (愛知学泉大学教授)  
講演題目：「生物多様性と人間」(12/14)  
講 演 者：肘井直樹 (生命農学研究科教授)



[問い合わせ先]  
生命農学研究科  
教授 肘井直樹 052-789-4181

**11月18日(月)**  
場 所：ES 総合館1階ES会議室  
時 間：10:00~16:45  
定 員：80名  
対 象：愛知県内の大学・短大でメンタル  
ヘルスや学生支援などに関わる  
専門家および関係者  
参 加 費：無料

**総合保健体育科学センター  
こころの絆創膏セミナー**

テ ー マ：「学生の居場所としての大学」  
講演題目：「最近の青年の変化」  
講 演 者：大饗広之氏 (日本福祉大学教授)  
内 容：映画「扉のむこう」上映、学生支援についての  
講演と意見交換会



[問い合わせ先]  
総合保健体育科学センター  
助教 古橋忠晃 052-789-5778

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**11月20日(水)~12月3日(火)**  
場 所: 博物館 1階展示ブース  
時 間: 10:00~16:00  
休 館 日: 日・月曜日  
参 加 費: 無料

**博物館スポット展示**  
「北欧のトナカイ牧畜民サーメー  
ー近代化と教育による変貌ー」



[映画上映会と講演会]

**11月23日(土)**

場 所: 野依記念学術交流館 2階カンファレンスホール  
時 間: 13:00~

講演題目: 『『トナカイ民と岩絵文化』を語る』

講 演 者: 嶋田義仁 (文学研究科教授)

内 容: サーメ映画上映&フィンランド人監督と語る、講演

参 加 費: 無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

**11月20日(水)**

場 所: ジュンク堂書店ロフト名古屋店  
7階ブックサロン  
(名古屋市中区)

時 間: 18:30~20:00

定 員: 30名

対 象: 中学生以上、一般

参 加 費: 無料

**名大カフェ “Science, and Me” 第39回**

講演題目: 「石彫から読み取るーオルメカからマヤへー」

講 演 者: 伊藤伸幸 (文学研究科助教)



[問い合わせ先]

リサーチ・アドミニストレーション室

研究員 戸次真一郎 052-747-6791

**11月20日(水)**

場 所: 野依記念物質科学研究館 2階  
野依記念講演室

時 間: 13:00~16:00

対 象: 一般

参 加 費: 無料

**日本学術会議中部地区会議学術講演会**

テ ー マ: 「大学からの知の発信ー分離融合の視点からー」

講演題目: 「磁石, 磁力, 磁場ー魔術から現代科学への道程」

講 演 者: 家 泰弘氏 (東京大学教授)

講演題目: 「フランスにおける自由主義の系譜」

講 演 者: 安藤隆穂 (経済学研究科教授)

講演題目: 「創薬とヒトの分子レベルからの理解を目指して」

講 演 者: 藤吉好則 (創薬科学研究科特任教授)

講演題目: 「言語の意味と構造」

講 演 者: 町田 健 (文学研究科教授)



[問い合わせ先]

研究協力部研究支援課 052-789-2039

**11月20日(水)、12月6日(金)**

場 所: 環境総合館 1階レクチャーホール

時 間: 18:00~19:30

定 員: 100名

対 象: 一般

参 加 費: 無料

**第95回、第96回防災アカデミー**

講演題目: 「東日本大震災と地震火災」(11/20)

講 演 者: 廣井 悠 (減災連携研究センター准教授)

内 容: 都市防災関連

講 演 者: 阪本真由美氏 (人と防災未来センター主任研究員)

内 容: 災害復興支援、生活再建支援、国際協力関連 (12/6)



[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

**11月21日(木)**

場 所: 医学部保健学科本館 2階  
第1講義室

時 間: 18:30~20:00

対 象: 学生、教員、医療従事者

参 加 費: 無料

**第68回ライフトピア連携研究会**

講演題目: 「脂肪酸摂取による認知機能低下予防:

『老化に関する長期縦断疫学研究 (NILS-LSA)』から」

講 演 者: 大塚 礼氏 (国立長寿医療研究センター NILS-LSA 活用研究室長)



[問い合わせ先]

医学部保健学科トータルヘルスプランナー

人材育成室 052-719-3158

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月22日(金)、29日(金)

時間：16:00～18:00  
 場所：全学教育棟本館3階 C36講義室 (11/22)、  
 文系総合館7階オープンホール (11/29)  
 定員：40名 (11/22)、30名 (11/29)  
 対象：本学および近隣の大学関係者  
 参加費：無料

[問い合わせ先]  
 高等教育研究センター  
 教授 夏目達也 052-789-5696

高等教育研究センター  
 第120回、第121回招へいセミナー

講演題目：「教学 IR の開発へのアプローチ  
 —リサーチ・クエスチョンの重要性に  
 焦点をあてて—」(11/22)  
 講演者：鳥居朋子氏 (立命館大学教授)、  
 川那部隆司氏 (同准教授)  
 内容：講演とワークショップをおりませた形式により、大学の教学 IR の開発に向けて、適切なリサーチ・クエスチョンの設定のあり方について議論する

講演題目：「学生の学びに寄与するポートフォリオとは」(11/29)  
 講演者：栗田佳代子氏 (東京大学特任准教授)  
 内容：ティーチング・ポートフォリオの導入支援の経験および東京大学における大学院生向けプログラムへの導入の模索という観点から話題提供を行う



11月22日(金)、29日(金)

場所：文系総合館7階  
 カンファレンスホール (11/22)  
 全学教育棟北棟4階  
 405号室 (11/29)  
 時間：15:00～17:00 (11/22)  
 15:00～16:30 (11/29)  
 対象：一般  
 参加費：無料

[問い合わせ先]  
 国際言語文化研究科  
 メディアプロフェッショナル論講座事務局  
 gen-mediamijm@lang.nagoya-u.ac.jp

メディアプロフェッショナルコース  
 開設10周年記念公開講義

講演題目：「日本に関する歴史と領土をめぐる論争  
 —ドイツ・オーストリアとの比較分析—」(11/22)  
 講演者：トマス・バーガー氏 (ボストン大学准教授)  
 内容：日本を取り巻く領土問題や歴史認識にかかわる論争を、欧州におけるドイツやオーストリアのケースと比較して分析する (英語は逐次通訳予定)

講演題目：「Japan's Super Nation Brand: An American Perspective  
 —国家ブランディングとポスト3.11の日本—」(11/29)  
 講演者：ナンシー・スノー氏 (カリフォルニア州立大学フラートン校教授)



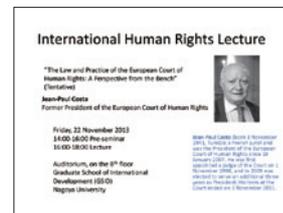
11月22日(金)

場所：国際開発研究科8階  
 多目的オーディトリウム  
 時間：16:00～18:00  
 対象：一般  
 参加費：無料

[問い合わせ先]  
 国際開発研究科  
 教授 山形英郎 052-789-4972

International Human Rights Lecture

講演者：ジャン＝ポール・コスタ氏 (前欧州人権裁判所長官)  
 内容：欧州人権裁判所の法と実行：裁判官からの視点 (使用言語：英語)



11月24日(日)

場所：ES 総合館1階 ES ホール  
 時間：13:00～18:30 (講演会)、  
 19:00～ (アフターパーティ)  
 定員：100名 (超過の場合選考あり)  
 対象：一般  
 参加費：無料 (アフターパーティは未定)

[問い合わせ先]  
 TEDxNagoyaU 実行委員会  
 tedx.unagoya@gmail.com

TEDxNagoyaU

テーマ：「Bridge the gap」  
 内容：東海圏で初の学生による TEDx イベント。“大学”という場で価値あるアイデアを共有し、新たに生み出すことで“社会に貢献しうる人材を育成”し“大学のあるべき姿を提案”する。

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月26日(火)

場 所：情報基盤センター4階演習室  
時 間：13:00~14:30  
定 員：40名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

平成25年度第8回情報連携統括本部公開講演会・研究会

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4368

11月29日(金)

場 所：日本経済新聞社名古屋支社3階  
会議室(名古屋市中区)  
時 間：18:30~20:00  
定 員：100名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

国際経済政策研究センター・キタン会  
第18回名古屋ビジネスセミナー

講演題目：『「アベノミクス政権」の光と影』  
講演者：泉 宏氏(政治ジャーナリスト)

[問い合わせ先]

経済学研究科附属

国際経済政策研究センター 052-789-4945



11月30日(土)、12月14日(土)、  
1月18日(土)、2月1日(土)

場 所：インキュベーション施設1階  
プレゼンテーションルーム  
時 間：10:00~15:00

ビジネス人材育成センター  
平成25年度後期B人セミナー

テ ー マ：「博士の就活スタート・リスタートー社会からの評価と自己評価・私らしい未来を  
獲得するためにー」、  
「サイエンスコミュニケーションについてーその手法開発と評価ー(変更予定)」(11/30)  
「Communications Stylesーhelping you to create good and lasting impressionsー」、  
「食品のためのヒト臨床試験業界ー学位を取得して企業で働くー」(12/14)  
「弁理士業務の実際と将来求められる人物像(仮題)」、  
「博士・ポスドクのための就職ガイダンス」(1/18)  
「プレゼンテーションスキル研修  
ー研究発表を、誰にでもわかりやすくプレゼンテーションー」、  
「食品業界における研究開発について  
ー自らのキャリアパスを振り返ってー(仮題)」(2/1)

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

ビジネス人材育成センター 052-747-6490

12月4日(水)

場 所：カフェフロンテ  
時 間：18:00~19:30  
定 員：50名  
対 象：一般  
参 加 費：無料(会場にてドリンク等の注文が必要)

第31回げんさいカフェー Gen Science Caféー

講演者：丸山一平(環境学研究科准教授)  
内 容：建築材料学関連

[問い合わせ先]

減災連携研究センター 052-789-3468

12月7日(土)

場 所：医学部附属病院中央診療棟3階  
講堂  
時 間：14:00~17:00  
定 員：250名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

東海がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン  
平成25年度市民公開講座

テ ー マ：「多職種チーム医療で臨む最先端がん放射線療法」  
講演題目：「放射線治療専門医の立場から・放射線治療はチーム医療」  
講演者：伊藤善之(医学系研究科特任教授)  
講演題目：「放射線治療技師/物理士の立場から・高度で安全な放射線治療」  
講演者：加茂前 健(医学系研究科特任助教)  
講演題目：「放射線治療専門看護師の立場から・放射線治療の看護と  
その実践」  
講演者：中盛祐子氏(国立がん研究センター東病院副看護師長)

[問い合わせ先]

医学部・医学系研究科学務課

がんプロ事務局 052-744-1981



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

12月12日(木)

場 所：ウインクあいち6階、10階  
(名古屋市中村区)

時 間：13:00~19:30

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

中部地区医療・バイオ系シーズ発表会  
実行委員会事務局 (研究協力部社会連携課内)  
chubu\_seeds@sangaku.nagoya-u.ac.jp

## 中部地区医療・バイオ系シーズ発表会

講演題目：「創薬のための産学連携：私の経験と挑戦」

講 演 者：竹中登一氏 (ヒューマンサイエンス振興財団会長)

講演題目：「薬事戦略相談の事業概要とその活用」

講 演 者：石川 廣氏 (医薬品医療機器総合機構テクニカルエキスパート)

内 容：シーズ展示会、新技術説明会、基調講演



12月21日(土)

場 所：野依記念学術交流館

時 間：13:30~16:30

定 員：200名

対 象：一般

参 加 費：無料

[問い合わせ先]

研究所事務局総務課 052-789-3466

## 地球水循環研究センター公開講演会

テ ー マ：「地球環境変動—気候変化からハビタビリティまで—」

講演題目：「気候変動と森林破壊」

講 演 者：熊谷朝臣 (地球水循環研究センター准教授)

講演題目：「氷期・間氷期から探る地球温暖化」

講 演 者：吉森正和氏 (東京大学特任助教)

講演題目：「地球環境と生命の進化」

講 演 者：田近英一氏 (東京大学教授)

講演題目：「もう一つの地球：系外惑星とハビタビリティ」

講 演 者：玄田英典氏 (東京工業大学研究員)

内 容：数十年から数十億年にわたるさまざまな時間スケールで起こる地球環境変動の成り立ちを紹介する



12月21日(土)

場 所：博物館2階展示室

時 間：14:00~15:00

[問い合わせ先]

博物館事務局 052-789-5767

## 博物館クリスマスコンサート NUMCo

「知られざる音楽大国 ベネズエラのしらべ  
—国民的楽器クアトロを中心に—」

演奏曲目：「草原の魂」、「コーヒールンバ」、他

出 演：「CELESTE (セレステ)」出口泰司氏 (クアトロ、バンドーラ)、  
岡野友絵氏 (ベース、クアトロ)



12月24日(火)

場 所：博物館3階実験室

時 間：13:00~16:00

定 員：20名

対 象：小学5年生以上、一般

参 加 費：50円 (保険料)

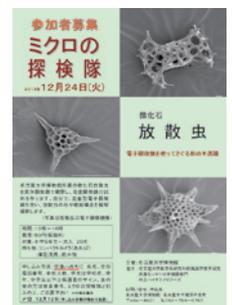
[問い合わせ先]

博物館事務局 052-789-5767

## ミクロの探検隊®「微化石 放散虫

—電子顕微鏡を使ってさぐる形の不思議—

内 容：博物館所蔵の微化石放散虫を実体顕微鏡で観察し、走査顕微鏡  
の試料を作り、放散虫の形や微細構造を観察撮影する



名大トピックス No.246 平成25年11月15日発行

編集・発行/名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

ホームcomingデイにおいて  
実験等を行う参加者に説明する  
女子学生  
(平成25年10月19日)



## 139 『氷壁』・ナイロンザイル事件と名古屋大学

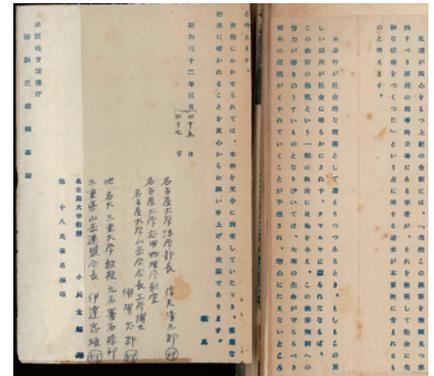
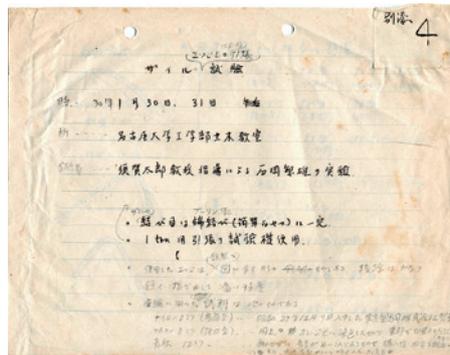
「ナイロンザイル事件」とは、1955(昭和30)年1月に前穂高岳でおこった転落死亡事故に端を発し、その原因がナイロン製のザイル(ロープ)の弱点にあるか否かをめぐって争われた、当時の社会問題にもなった事件です。犠牲者の遺族や関係者が、メーカー、山岳界、学界、マスコミなどにねばり強くはたらきかけ、20年の歳月をへて、ようやくその主張が広く認められるに至るという結末をむかえます。井上靖のベストセラー小説『氷壁』の素材となった事件と言った方が、分かる人が多いかもしれません。

実は、このナイロンザイル事件は名大にも深い関わりがあります。まず何と言っても、転落事故の犠牲者である若山五郎の実兄で、事件の主人公ともいべき石岡繁雄です。石岡は、1940年に旧制第八高等学校(名大旧教養部の前身)を卒業、1942年には名古屋帝国大学工学部電気学科を卒業しました。さらに、1952年から64年まで名大に事務

官として勤務していました。また、事故当時中央大学4年生で、ザイルパートナーとして若山五郎の転落をまのあたりにし、石岡とともに事件に臨んだ石原國利氏も、1957年から66年まで名大の事務官でした。

また、石岡は自らの主張を実証するため、ナイロンザイルの岩角での強度を試す数多くの実験をおこないましたが、名大工学部において、当時の教授の指導の下に実施した実験もありました。また、メーカーに有利な検証実験をおこなった研究者を石原國利氏が名誉棄損で告訴した際、多くの名大の教員が検事への陳情書に名前を連ねました。そのほか、『名古屋大学新聞』は早い時期の紙面で、石岡を支持する記事を発表しています。

現在、名大の博物館において、第28回企画展「『氷壁』を越えて—ナイロンザイル事件と石岡繁雄の生涯—」を開催中です(来年1月30日まで)。こちらもぜひご覧ください。



- 1 石岡繁雄(1918-2006)。名大事務官の後は、豊田工業高等専門学校教授、鈴鹿工業高等専門学校教授を歴任した。写真は、1973年の公開実験を、詰めかけたマスコミ関係者等に説明する石岡(中央)。2012年、石岡の残した膨大な資料が名古屋大学博物館および大学文書資料室に寄贈・寄託された。
- 2 名大事務官時代の石原國利氏(左、1964年、石原國利氏提供)。現在は、福岡県で合名会社石原商店・株式会社スズラン・有限会社スズランクラフトの会長を務めている。
- 3 転落事故の1ヵ月後に、名大工学部において須賀太郎教授の指導の下におこなわれた実験のメモ。

1 3 4 大阪地検の検事への陳情書の一部(写、1957年3月)。名大の教官など約30名の連名になっているが、その先頭に名大法学部長の信夫清三郎教授、名大工学部の須賀太郎教授の名前が見られる。  
2 5 1958年1月15日の『名古屋大学新聞』。